

令和元年第3回定例会 経済建設常任委員会審査記録（第1日目）

- 1 日 時 令和元年9月18日（水） 午前10時00分
- 2 場 所 市役所 第一委員会室
- 3 議 題 議第126号 平成30年度村上市蒲萄スキー場特別会計歳入歳出決算認定について
- 4 出席委員（6名）

1番 川崎健二君	2番 山田勉君
3番 本間善和君	5番 小林重平君
7番 小田信人君	8番 川村敏晴君
- 5 欠席委員（2名）

4番 竹内喜代嗣君	6番 大滝久志君
-----------	----------
- 6 委員外議員

小杉武仁君	渡辺昌君	鈴木一之君	
鈴木いせ子君	高田晃君	大滝国吉君	
- 7 地方自治法第105条による出席者

議長 三田敏秋君
- 8 オブザーバーとして出席した者

副議長 大滝国吉君
- 9 説明のため出席した者

副市長	忠聡君
農林水産課長	大滝敏文君
同課農業振興室長	小野道康君（課長補佐）
同課農業振興室副参事	中川博之君
同課農業振興室係長	本保敦志君
同課林業水産振興室長	稲垣秀和君（課長補佐）
同課林業水産振興室副参事	伊藤幸夫君
同課林業水産振興室副参事	臼井信一君
同課食材魅力推進係係長	小田朋子君
農業委員会事務局長	小川良和君
地域経済振興課長	川崎光一君
同課経済振興室長	山田昌実君（課長補佐）
同課経済振興室副参事	成田大介君
観光課長	大滝寿君
同課観光交流室長	片岡昌幸君（課長補佐）
同課観光交流室副参事	齋藤健一君
荒川支所産業建設課長	渡邊修君
神林支所産業建設課長	瀬賀豪君
朝日支所産業建設課長	大滝清考君
同課産業観光室長	小池一栄君（課長補佐）
山北支所産業建設課長	加藤泰君
同課産業観光室長	森山治人君（課長補佐）
- 10 議会事務局職員

局長 小林 政 一
副参事 鈴木 渉

(午前10時00分)
委員長(川村敏晴君)開会を宣する。

○当委員会の審査については、審査日程どおりに進むことに異議なく、そのように決定する。

日程第1 議第126号 平成30年度村上市蒲萄スキー場特別会計歳入歳出決算認定についてを議題とし、担当課長(観光課長 大滝 寿君)から説明を受けた後、質疑に入る。

(説明)

観光課長

それでは、議第126号 平成30年度村上市蒲萄スキー場特別会計歳入歳出決算認定についてお願いいたします。地方自治法第233条第3項の規定によって、平成30年度村上市蒲萄スキー場特別会計歳入歳出決算を別紙監査委員の意見を付して議会に認定をお願いするものである。それでは、決算書のほうごらんいただきたいと思う。決算書のまず234P、235Pに歳入の項目が出ている。1款売上金が平成30年度38万2,208円、それから2款使用料及び手数料については825万9,450円、それから3款繰入金として4,328万8,000円、それから4款繰越金で1万9,690円、5款諸収入といたして303万6,302円、収入の合計といたしては5,498万5,650円の収入があった。次のページになるが、歳出については1款総務費、1項総務管理費といたして5,399万4,189円、それから2款公債費といたして2万3,487円、3款予備費の支出はなく、合計が5,401万7,676円、歳入歳出の差引残高で96万7,974円となっている。収入のその主なものとしたしては、スキー場の売り上げ、それから使用料そのものはいいのだけれども、雑収入といたしてスキー貸出料で258万1,000円ほど、それからロッジの使用料等々が入っております。それから、歳出については、スキー場の一般管理経費として142万5,039円を支出させていただいた。それから、スキー場の運営経費といたして、作業賃金等々で1,083万9,985円、それから工事費等であるけれども、落雷等による修繕、それから第1ペアリフト通信線の更新、それから第2ペアリフトの滑車の部分の交換等々があつて、1,610万6,148円等々を支出させていただいている。報告のほうは以上だが。

(質疑)

小田 信人

お伺いするけれども、せんだってこのスキー場の排水が壊れているところを視察してまいったのだが、あれは災害になるのか、それどういうあれになっている。

観光課長

そのごらんいただいたところというのが6月16日、地震の2日前に局地的に降った雨で土砂が流れ出たところである。私どもいろいろ災害対応等々の関係各課ともちよっと協議させていただいたのだが、その災害対応の部分にはなかなかならないというようなことがあつて、とりあえず土砂が流れないように仮復旧だけはさせていただいた。ただ、現場の状況を見るとかなり大きな工事になりそうな感じがあるので、今後の対応といたしては、専門家に見ていただいたりとかということが当然必要になってくるかなというふうに思っている。できるだけ早く人家に影響ないような形での対応はしたいと思っているけれども、今のところ仮に土砂、水のできるだけ出ないような形で対応させていただいているというような状況である。

川村委員長 よろしいか。

小田 信人 はい。

本間 善和 利用者の内訳をちょっとお聞きしたいのだけれども、市内の小・中学校の蒲萄スキー場の利用者の実績を報告願いたいと思う。

観光 課長 平成30年度で15校ほど利用していただいて、人数が1,979名、延べになるわけだけれども、そのぐらいの利用があった。

本間 善和 結構である。

川村委員長 いいか。

本間 善和 いい。

小林 重平 学校別で。

観光 課長 一応山北地区、さんぼく北小学校の3、4年生2回、それから5、6年生1回、それからさんぼく南小学校の3、4年生が2回、それから5、6年生が2回、それから山北中学校の1、2年生が1日、それから朝日地区だと塩野町小学校の全校で2回、それから猿沢小学校の1、2年生が2回、それから3、4年生が1回、5、6年生が2回、それから朝日みどりが1、2年生1日、3、4年生1日、5、6年生が1日、それから三面小学校が2日、それから小川小学校の1、2年生が2日、3、4年生が2日、5、6年生が2日、それから村上地区ですと山辺里小学校の4年生が1日、5年生が1日、村上小学校の4年生が1日、5年生が1日、6年生が1日、それから村上小学校の6年生1日、瀬波、上海府小学校の4年生が1日、それから5年生1日、6年生1日、それから神林地区が神林東小学校3、4、5、6年生で2日だ。それから、荒川地区で金屋小学校の4、5、6の生徒が1日ということになっている。

小林 重平 そこ授業の一環として行っているのか。

観光 課長 多分学校が県に申請して授業でやられて、その補助をいただきながらやっているということだと思う。

川村委員長 よろしいか。

小林 重平 了解。

本間 善和 この人数、この学校の数からいって、先生が当然同伴するわけだけれども、多分先生だけでは間に合わないのではないかと思うのだけれども、現状どうなっているのか、指導者という格好で。

観光 課長 指導者については四、五人に1名だか。たしかボランティアとか、それから学校関係者の方から指導員を募って指導に当たっているというふうに理解している。

本間 善和 その指導者のリフト代とか、そういう借上料なんかは料金として入ってきているのか、入ってきていないのか。

観光 課長 無料である。

本間 善和 わかった。結構だ。

川崎 健二 確かに山北、朝日、村上利用しているわけだけれども、神林は特に5校もあるのに1校しか行っていないと。ほかは、どこか行っているのか。今までは、わかぶなの方へ行っていたのだけれども、今もまだ継続でわかぶなへ行っているか。でも、あなたに聞いてもわからないか。

観光 課長 私も、前学校教育課にいたので、あれなのだけれども、多分そっちの申請というのは学校教育課になると思う。ただ、以前から議会のほうでも蒲萄を使うようにというような形で指導というかあれがあったので、極力そっちになっているかとは思

けれども、申しわけないのだが、詳しいところは存じ上げていない。
川村委員長 川崎委員、よろしいね。

〔委員外議員〕

渡辺 昌 ゲレンデの草刈業務委託料として180万円上がっているけれども、去年は人手不足なので、機械を入れたそうなのだけれども、全然機能、すぐ壊れてしまって大変な思いしたそうなのだ。それで、これ決算にあれなのだけれども、ことし次のシーズンへ向けて、確かな情報ではないのだけれども、地元猟友会草刈り業務受けない方向だと聞いたのだけれども、今現在どういうふうな状況なのだろうか。

観光 課長 つい最近になってそういう話があった。私ども、同じようをお願いするつもりでいたのだが、そういう話があったので、今他の事業者等と調整中である。

渡辺 昌 例えば他の業者という、森林組合とか建設業ということだろうか。

観光 課長 そちらにお願いできるかどうかというようなことを今探っている状況である。

三田 議長 観光課長ことしの春からなので、その経緯は引き継ぎしているかしていないわからないけれども、蒲萄スキー場はちょっと手続ミスで休んだことあったのだ、多分前市長のときだけれども。そのときに、蒲萄地区で委員会に陳情に来て、どうしても再開してくれということであったわけだ。そのときに、私多分去年も言ったと思うのだけれども、私どもの地代下げてもいいと、一般会計からこれだけ繰り入れしているのだということは認識しているのだから。そういうことで、ただ今までそういう地代の件は全然触れていないのだ、その後再開した後も。その経緯が引き継ぎされているのかされていないのか、協議されているのかされていないか教えてくれ。

観光 課長 その話は伺っている。今年度の部分については、地元とのちゃんとした話し合いの場をまだ持っていないので、今後また将来的にもそういう話が出てもいいのかなというふうには思っている。

三田 議長 それ副市長に答弁求めるけれども、お互いに誠意を持って物事というのはやっぴりかないと、なかなか無理しているとずっと継続というのは無理なところも出てくるわけだから、お互いにやっぴり腹を割ってしっかりと協議してほしいと思うが。

副市長 市にとっても重要な観光施設でもあるし、市内の子どもたち、今申し上げたような形で利用もいただいている。また、このゲレンデのよさもあって、特定のやっぴりファンの方もいらっしゃるというようなことであるので、継続というふうな観点に立ちながら、地元の方々とは、今後の運営していく意味でも重要な観点だと思うので、しっかりと地元との話し合いを進めながらお互いにいい関係を持ちながらいくために努力をしていきたいと思う。

川村委員長 よろしいだろうか。

高田 晃 蒲萄スキー場の決算状況を見ると、監査の報告見ても前年比で大分もう落ち込んでいると、減少していると。多分にその落雷関係の影響があったのかなと思うのだけれども、その原因はそれ以外にも何かあるのか。

観光 課長 落雷のほかに少雪、3月以降1週間ほど早くスキー場閉めたというようなことがあって、入場者数にも影響があったというようなことだと思っている。

高田 晃 副市長もお話ししたとおり、やっぴり市内でも重要な施設だ。今後この市からの繰出金が毎年のように続けるということで、この蒲萄スキー場のファンをふやすためのプロモーションとか、あるいはそのスキー場の開設しているシーズン以外の活用とか、その辺何か市のほうでは今後のことを考えているだろうか。

観光 課長 一応そのオフシーズンの利活用については、前々からお話が出ているということは私も引き継いでいるし、その有効的な活用については、今後も地元も交えた形で協議していかなければいけないかなというふうに思っている。また、プロモーションについては、県等々からいろんな冬のスキーシーズン、インバウンドも絡めてお話もいただいているが、今の現状で私どもできる部分については、その対応できる部分についてはそれなりの対応はさせていただいているところである。

以上で質疑を終結し、討論を求めたが討論なく、起立による採決を行った結果、議第126号については、起立全員にて原案のとおり認定すべきものと決定した。

委員長（川村敏晴君）散会を宣する。
（午前10時20分）